

『三段以下 審査会講評』

教士八段 市川 学 先生

昨年9月27日の三段以下審査会がコロナ禍のために延期となり、同年12月13日に無事に行われました。関係役員並びに運営係員の方々には感謝申し上げます。受審者も制限される中で稽古を重ねられた方、コロナ編であるからこそ、自分と向き合い稽古を工夫して来られた方もおられたのではないでしょうか。

指定技は各段共に全剣連居合「1・2・6・9・10本目」に統一され、正座不可の方も同じ指定技を立技として行い、結果「初段は、76名受審し73名合格96%、二段は63名受審し57名合格90%・三段は42名受審し30名合格71%」でした。技について気付いた点を述べさせていただきます。

「1本目」は、基本の型であり修行の深さが現れます。体制がしっかりと入り、朝引きの利いた抜付は居合の生命とされること、また「気・剣・体」の一致した切付と血振りを練り求めて下さい。

「2本目後」では、後の敵に向き直る時、右足が右膝の真後まで回りきれず内側に入った形で抜き付けている人が見られました。

「6本目諸手突き」では、体が前に突き込み、前膝を曲げ過ぎで後足踵が上り過ぎ全体的に前崩れとなって方が見られた。また、前爪先が内向き、後ろ爪先が外向きになり身体がしっかりと前を向かず、力が前に出しにくい方が多く見受けられました。

「添え手突き」では、三歩目の足を左に向けて踏んでいたり、突きの剣先が上や下を向き突きの体勢が崩れていたり、位取りの右手が低い方や左手が動く方が見られた。

「四方切り」では、最初の右前の敵にしっかりと体を向けて打つこと。その時に柄を見ていて、敵の顔を見ていない突きでは真後ろの敵への体捌きが出来ていない。脇構えでの剣先が下がっていない、踏み替えの足と一致していない等が見受けられました。

合格された方はおめでとうございます。今日から上の段位を目指して一歩一歩丁寧に稽古して下さい。今回不合格の方はそれぞれの良い所が見受けられましたのでさらに正確なポイントを押さえられると良い居合になると思います。

以上